

患者の皆様へ

2020年6月26日

婦人科

現在、婦人科では、「進行明細胞がんに対するベバシズマブ投与の有効性に関する後方視的検討」の研究を行っています。今後の卵巣癌治療の向上に役立てることを目的に、当院で2007年から2018年までに進行明細胞癌と診断された28人の患者さんの診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名

「進行明細胞がんに対するベバシズマブ投与の有効性に関する後方視的検討」

2. 研究の意義・目的

明細胞癌は卵巣癌のなかでも化学療法が効きづらい腫瘍であると報告されています。また、明細胞癌は多くの患者さんは早期卵巣癌で発見されるため、良好な治療結果を得られることが多いのですが、進行した状態で見つかった患者さんの場合、治療が難しく治療方針が確立していません。日本では2013年以来、ベバシズマブ（アバスチン）が進行卵巣癌に使用できるようになりました。そこで、進行明細胞癌の患者さんを対象としてベバシズマブが治療に役に立っているかを検討するために、ベバシズマブが保険の承認を得られた前後での進行明細胞癌の治療成績について後方視的に検討します。

3. 研究の方法

当科で2007年から2018年までに治療がおこなわれた28人の患者さんを対象にします。患者さんの年齢、病気の広がり、手術の内容、化学療法の内容、ベバシズマブの投与の有無、生存・再発の期間などをカルテから調査しまとめます。研究内容は、学

会・学術誌に公表予定です。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化を行い研究に用います。個人情報が外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院生殖医学教室の鍵のかかる部屋で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をします。ので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学大学院医学研究院生殖医学
千葉大学医学部附属病院婦人科
本件のお問合せ先 : 千葉大学大学院医学研究院生殖医学
医師 楯 真一
043 (226) 2121 内線 5314